

武雄市行政改革市民会議（第2回）議事録

- 1 日時 平成23年3月30日（水）10:00～11:45
- 2 場所 武雄市役所4階会議室
- 3 出席者 11人（欠席者：新納委員、井手口委員、桃崎委員）
- 4 議事録

○会長あいさつ

第2回目の会議となるが、闊達な議論をお願いします。

○新・行政改革プラン（仮称）について

・事務局説明

平成23年度より組織の見直しをはかり、「つながる部」を設置する。行政改革課は「政策部」に再編されている。また、前回会議で市長は、無駄をやめるという観点で意見をいただきたいとお話している。新プランは、そのような観点で策定したい。

1 改定の背景と目的

・事務局説明

（委員） 職員数の削減が進んでいるとのことであるが、職員を削減しすぎると行政サービスが低下するので、これ以上の削減は必要ないのではないか。また、長期的な見通しが次の項目にあるが、制度も今後変わるだろうし、大震災もあり、見通しがたたないのが本当のところではないか。

（委員） 職員に負担がかかっているのではないかと。長期に病気休暇をとっている職員はどれくらいいるのか。また、有給休暇の取得率はどれくらいか。

（事務局） 病気休暇を30日以上取得している職員は7名。有給休暇の取得は平均9.22日。

（委員） 組織見直しで、仕事の兼務体制が増えて、大変のように見える。職員は元気でないといけない。

（委員） 組織は簡素化されているとはいえないのでは。武雄市の職員数は総務省モデル、類似団体との比較において少ないとのことであるが、どれくらい少ないのか。

（事務局） 総務省モデルを100とすれば、武雄市は91、類似団体の平均を100とすれば、武雄市は90である。これは普通会計部門での比較である。

（委員） 職員が休日勤務した場合はどうしているのか。

（事務局） 代休を取得している。

2 今後の財政見直し

3 基本方針

4 目標

・事務局説明

(委員) 生活保護費は伸びているのか。

(事務局) 23年度は少し増える見込みである。扶助費ではそのほか障害者支援経費が伸びている。

(委員) 扶助費、公債費、繰出金はこういったものか。

(事務局) 扶助費は高齢者関係や私立保育所措置費、生活保護費、こども手当など。公債費は借入金の返還。繰出金は国民健康保険や後期高齢者医療、上下水道など特別会計等への一般会計からの繰出し分である。

(委員) 玄海町は借金が少ないようだが、原発関係の交付金とかがあるのか。

(事務局) 玄海町は原発調整交付金などで財政支援がある。

(委員) 歳出の見直しにおいて、現行の仕事量で職員を減らせないとすると、仕事を民間でもらうことで、職員を減らす考えもあるのでは。市民協働も大切である。

(委員) 歳出を減らすには、議員数を削減することが必要では。

(事務局) 議員数の削減については、ここで議論する行政改革の範疇に入らないと考える。

(委員) 民間委託や民間移譲により、行政経費を減らすことを考えたほうがいい。

(委員) 財政見通しが33年度までの資料となっているが、数字が独り歩きするのでは。

(委員) 先行きは赤字がでて、国の支援策がでてくるのではないか。

(委員) 国の補助金、交付金が年度末に残ったら、返さなくてはならないのか。

(事務局) 残った場合は国へ返還することになるが、次年度以降に予定していた事業を前倒しにするなどしている。また、事務費がないので、物品を購入して使い切るということはない。

(会長) 今回のプランでは財源を確保することが重要と思う。産業の育成や働く場があることで、税収が伸びる。

(委員) 鳥栖市の職員数は少なかったと思う。武雄市も公設民営にするなどして、職員の削減も必要では。私立保育所の経費は少子化を加味しても増えていくのでは。北方幼稚園のあり方も考えるべき。

(委員) ハコモノ建設については極力抑えてほしい。学校の建設もあまり経費をかけないように住民の意見を聞いてはどうか。

(委員) 財政見通しはどのパターンで見込んでいるのか。甘く見ているのか、最悪のパターンでみているのか。人口は35年後には8割まで減ると予測されている。人口減少は見込んでいるのか。低負担、高サービスはありえない。必ず市民の負担がでてくる。負担はお金であることも人力あることもある。

(委員) 財政見通しをきちんと見せて、危機感を共有するべき。高齢化が進むことで、負担が増えてくる。

5 計画の体系

・事務局説明

(委員) 組織が変わって、どこの課に相談したらよいかわからない。

(委員) 北方に工業団地ができるので、企業を誘致し、財源を確保すべき。

6 具体的な取組

・事務局説明

具体的な取組については、現在担当課において検討しているところなので、次回提案させていただきたい。

(会長) 全体的を通して、意見がありましたら、どうぞ。

(委員) 支所はこのまま継続するのか。

(事務局) 支所については段階的に見直し、平成 18 年度は 6 課 3 分室 16 係で 37 人であったが、22 年度は 3 課 2 分室 9 係、22 人となっている。今後については検討の段階。

(委員) 支所に空きスペースがある。これからは福祉センターに支所機能をつけるという考え方もあるのでは。

(委員) 北方支所には社会福祉協議会が入っている。これ以上支所職員を減らせば、支所機能に影響する。

(委員) 支所の活用については以前地域審議会でも話をしていた。今はどこに相談したらよいのか。

(事務局) 庁舎の使用については、本庁は財政課、支所は支所総務課に相談してください。

(委員) みんなのバスは今後どう進めるのか。

(事務局) 新年度に区長会で取り組む地区を募集するなどして、進めたい。

(委員) 公民館職員が武雄町は町の規模からして少ないと思われる。